

2023.10.16 学校CHLOOS

一律の「宿題」廃止

→ 「家庭学習」への転換
で見えてきた可能性

岐阜市立岐阜小学校長 藤田 忠久

「家庭学習」への転換の経緯

- 個人的に「宿題」には違和感や抵抗感
- 岐阜県教委「教職員の働き方改革プラン2017」を受けた前任校（統合新設校の徹明さくら小学校）での担任業務見直し案の一つとして
「家庭での学習として提出されたノートには朱筆は入れないこと」を職員会で提案
- ※ 時期尚早（保護者の理解は得にくい）という判断から「将来的な方向性」としての提案に留める

「家庭学習」への転換の経緯

- 2021年10月の自己啓発面談で大学院出の初任者（体育専門1年担任）から「子どもたちと外で遊びたいのに宿題ノートの点検や添削で時間がとれない」という相談
- 12月の学級懇談で事情を説明し「家庭での学習の見届けは、ご家庭にお任せできるとありがたい」というお願いをしたところ承諾（賛同）を得られた

**保護者
理解に
手応え**



「家庭学習」への転換の経緯

2022年3月2日の朝の会「日直の話」として
「ロシアのウクライナ侵攻」をパワーポイント
にまとめて発表する6年生児童に感服

**理想とする
子どもの姿
を再認識**



「家庭学習」への転換の経緯

- 令和4年度4月最初の職員会で校長が「今年度から宿題とは呼ばず『家庭学習』へと改める方針」を打ち出す

- 学習指導部会からの具体的提案 →

2 家庭学習の方向性

学年	家庭学習の内容	点検（提出）	その他
1・2年生	基礎学力を学校と家庭の双方で確実に定着させるため、担任がすすめたケドやカド、プリント、音読等を行う。	毎日提出し、児童理解を行う。	・丸付けや直しは保護者が行う。 ・家庭学習の習慣化を図る上で必要な指導・援助を行っていく。→低学年で学習習慣付けや保護者の見届けを定着させることで、中学年以上で自分の力で進めていけようにしていく。
3～6年生	ケドやカドを中心に自分で学習の計画を立てて学習を進めていく。（予定帳にその日の学習計画を立ててもよい。）	週2～3回程度児童理解のために集める（曜日や集め方は学年でそろえる）その日のうちにやって返却しなくても翌日もよい。	・丸付けや直しは児童自身が行う。（高学年） ・丸付けや直しは段階的に保護者から児童へ移行する。（中学年部で相談） ・学年の実態に応じてカドやケドのどのページをやるとよいのか例示していくが、全員が一律に行うものとはしない。

※上記の学習（ケドカド）以外の学習も進めていけるように、学年に応じて例示していく。

※家庭学習ができなかった児童がいても、休み時間等にやらせることは絶対にしない。（家庭で責任をもって見届けてもらう）基礎学力の定着に不安のある児童は「学校」の授業のできる範囲内で配慮や支援を行ったり児童や保護者に啓発したりしていく。

※新出漢字に関しては、必ず授業の中で扱うようにする。

※音読カードを配付している学級も多いが、それらも「家庭学習のひとつ」として配付し、児童が必要に応じて進めていく。

「家庭学習」への転換の経緯

保護者宛の通知文配布 →

4月第3週の個人懇談の 機会に担任から補足説明



<長子配布>

保護者各位

令和4年4月11日

岐阜市立岐阜小学校

校長 藤田 忠久

岐阜小学校の「家庭学習の考え方」について（お知らせ）

平素より、本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、岐阜小学校では「社会の急激な変化を乗り越え未来を切り開いていく力」が求められる今、子どもたちにはその学力基盤として「自ら進んで学ぶ力」を育成することが大切だと考えました。これは学校の授業だけでなく、家庭での学習においても培いたい力です。

家庭で時間を決めて自分から学習することが当たり前になることで、学習効果の向上と学びに向かう姿勢を育まれます。苦手なところや分からないところを中心に復習することで、基礎学力の定着が図られます。次の授業の予習をすることで、学習意欲や自信が高まる効果があります。自分で課題をもって取り組むことで、目的に合った「学び方」の向上や各教科の見方や考え方の広がりや深まりをもたらし、一人一人の可能性を広げることにつながられます。

そこで、令和4年度からは「やらされている」と思いがちな「宿題」という言葉は用いないようにし、「家庭学習」と呼んでいくことにしたいと思います。また、学年ごとに「家庭学習」を例示しながらも、できるだけ画一的な（一律の）課題を出すことは避け、児童一人一人が自分のためになる学習に取り組むようにしたいと思います。

「家庭学習」の主体は、あくまでも家庭（児童本人・保護者）となります。学校では、家で勉強していないこと（宿題忘れ）を叱ったり咎めたりすることをなくし、児童理解の一環として、家庭での学習習慣や学習内容を認め励ますようにしていきます。そして、今まで提出された家庭学習に目を向けていた時間を、子ども一人一人に寄り添い、向き合う時間へと転換します。

「家庭学習」への転換の経緯

コミュニティ・スクール先進校
として

4月の学校運営協議会理事会
5月上旬の学校運営協議会
で賛同（承認）を得る



「家庭学習」への転換後の様子や変化

4月予告の**岐阜小学校「家庭学習の手引き」**を夏休み中に作成～全校児童に配布し、学校HPにも掲載
学校だよりにも「改めて各ご家庭で『家庭学習』について話し合い『自分で進んで学ぶ』決意を新たにしていたただけですと幸いです」と啓発

かていがくしゅう てび 家庭学習の手引き



ぎふしりつぎふしょうがっこう
岐阜市立岐阜小学校

目次

1. 目次	P1
2. 「家庭学習」の考え方	P2
3. 「宿題」→「家庭学習」転換概要	P3
4. 低学年期の「家庭学習」	
(1) 1年生「家庭学習」行い方	P4
(2) 2年生「家庭学習」行い方	P5
5. 中学年期の「家庭学習」	
(1) 3年生「家庭学習」行い方	P6
(2) 4年生「家庭学習」行い方	P7
6. 高学年期の「家庭学習」	
(1) 5年生「家庭学習」行い方	P8
(2) 6年生「家庭学習」行い方	P9
7. 岐阜小学校らしい「自主学習」	P10

「家庭学習」への転換後の様子や変化

- 令和4年12月の学級懇談会のテーマは全校共通で「家庭学習」とし、保護者間の情報交流や担任からの助言の機会に！

- 「困っている」という保護者に対して「我が家ではこうしているよ」という前向きな提言が聞かれるようになった



「家庭学習」への転換後の様子や変化

懇談後の学校だよりには

今回の懇談は「家庭学習」を中心に交流していただいたのですが、職員間で共通理解を図っていることは「家庭での学習においても『自ら進んで学ぶ力』の育成を重視」「家庭での学習の主体はあくまでも家庭（児童本人・保護者）」「教員は『宿題』に要した時間を子ども一人一人に寄り添い向き合う時間へと転換」の3つです。懇談で話題になった不安や困惑は「家庭が主体」という部分であったようです。

こうした声を受け、担任から子どもたちに「授業進度や家庭学習の内容や方法を、親に相談したり報告したりすることは子どもの責任！」と指導しました。「親子の対話」を大切にし、我が子を見守り、見届けることを「保護者の責務」と認識して「家庭学習」にも取り組んでいただきたいと願っています。どうか、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

改めて「家庭学習」の趣旨説明と協力依頼！

「家庭学習」への転換後の様子や変化

令和4年1月に学習指導部から「家庭学習相談日」を
設け、バランスを考えた「家庭学習」を助言するよう提案

【タイミング】

「テスト前・予習」



【定着】

「ドリル・問題集」



【発展】

「創造的思考」

自ら進んで学ぶ力（計画・工夫）

「家庭学習」への転換後の様子や変化

- ・ 学習指導部の提案を受け、これまでの「家庭学習」の点検ではなく、交流や相談へのシフトチェンジ！
- ・ 子供たちからは『定着』で自分の苦手なことを重点にできた自分の興味を持ったことができる『発展』の学習が楽しいなどの声上がるようになった。



「家庭学習」への転換後の様子や変化

親と選んだ問題集を何冊も積み上げたり、魚の3枚おろしを1人1台端末で動画に収めて紹介したり、運動会の綱引きのコツを調べてクラスメートに「やってみよう」と呼びかけたりするなど、ユニークな家庭学習も見られるようになった。



「家庭学習」への転換後の様子や変化

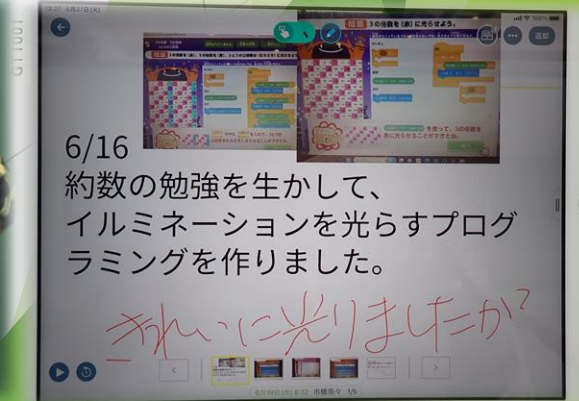
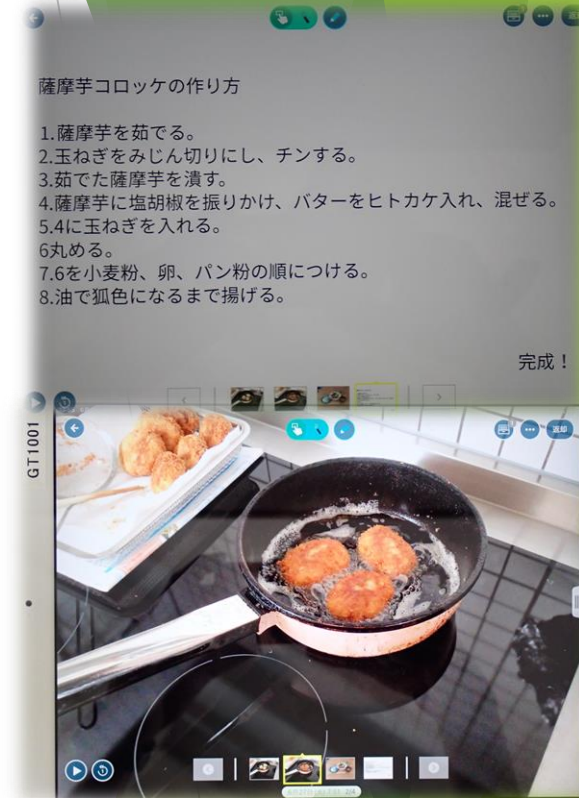
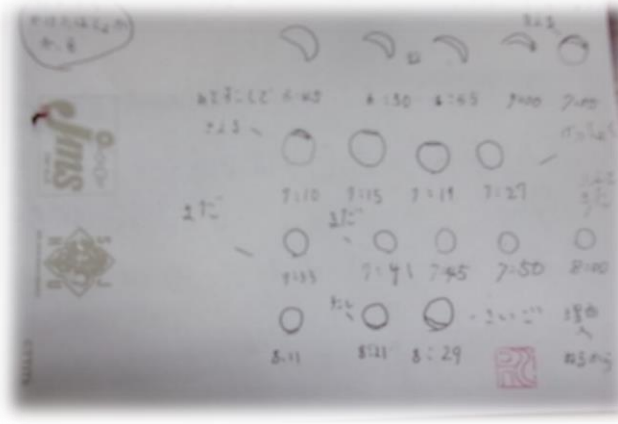
「家庭学習」相談日には、直接仲間の前で発表した後、担任からの評価を聞く参集型や、ロイロノートで集めた一人一人の「家庭学習」を大型テレビのモニターで紹介しながら、学級担任がそれぞれの良さや頑張りをみんなに広めたり、定着に向けて行っていることを確かめたりしています。



- 1 スキル
- 2 家庭科
- 3 国語
- 4 音楽
- 5 体育
- 6 学活

「家庭学習」への転換後の様子や変化

「家庭学習」の内容や方法を自分で考えたり、親子で相談したりして決めて実行することで「進んで考える子」「自ら学ぶ子」に育つと期待して始めたが、学校での学びを発展させることで好奇心や探求心が高まる利点も実感するようになった。



「家庭学習」への転換後の様子や変化

教師（担任）は、子供と一緒に遊んだり、子供の話に耳を傾けたりする時間の使い方が保証されるようになった。また、なかなか定着しない子に対して、重点的に助言や見届けができるようになった。

**※負担軽減と言うより教師の
役割としての業務改善**



「家庭学習」への転換後の様子や変化

成果は「家庭学習」が定着してからと考えているが、1年目の調査結果を見ても数字で表れている部分は見られる。

令和5年度 全国学力学習状況調査（質問紙調査結果）より

		1 よくしている	2 時々している	3 あまりしていない	4 全くしていない		
(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	19	17	10	1		
		40.4	36.2	21.3	2.1		
		33.4	42.5	19.1	5.0		
		28.7	42.0	22.1	7.1		

		1 3時間以上	2 2~3時間	3 1~2時間	4 30分~1時間	5 30分未満	6 全くしない
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	11	4	15	10	7	0
		23.4	8.5	31.9	21.3	14.9	0.0
		7.3	15.8	38.8	28.1	8.0	2.2
		11.8	13.8	31.5	26.8	11.4	4.8

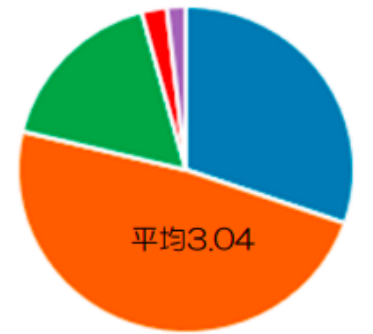
		1 4時間以上	2 3~4時間	3 2~3時間	4 1~2時間	5 1時間未満	6 全くしない
(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	8	4	3	15	15	2
		17.0	8.5	6.4	31.9	31.9	4.3
		4.0	5.4	12.5	32.9	35.2	10.0
		7.9	5.4	11.4	27.8	33.7	13.8

※ 最上段…岐阜小学校の回答人数(実数値) 上段…岐阜小学校の割合 中段…岐阜県公立小学校の平均 下段…全国公立小学校の平均

令和3年度 保護者アンケートより

家庭では、児童が行う学習を見届けている。

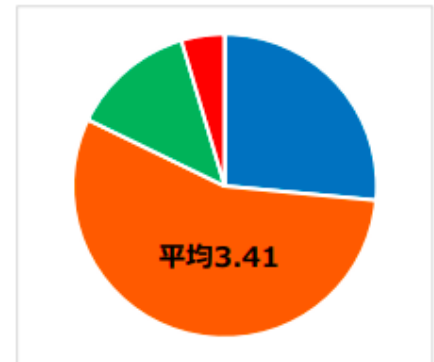
- 当てはまる 28.2%
- どちらかといえば当てはまる 48.5%
- どちらかといえば当てはまらない 19.3%
- 当てはまらない 2.5%
- 分からない 1.5%



令和4年度 保護者アンケートより

家庭では、児童が行う学習を見届けている。

- 当てはまる 26.5%
- どちらかといえば当てはまる 55.7%
- どちらかといえば当てはまらない 13.2%
- 当てはまらない 4.6%
- 分からない 0.0%



「家庭学習」への転換で見えてきた可能性

- 子供自身が、家庭での学習が楽しいと感じ、学習習慣が定着する
- 子供の興味や関心が広がったり深まったりし、好奇心や探究心が高まる
- 親子の対話が増え、相互理解や親子関係が深まり、保護者の自覚が高まる
- 教員の果たすべき役割が整理され、児童理解や教材研究が進み、指導力が高まる

「家庭学習」への転換で見えてきた可能性

- 「個別最適な学び」を進める上で、画一的な「宿題」は見直され、教師の指導も選択と集中が進む
- 「協働的な学び」（授業）が充実し、令和の日本型教育の考え方に光が見える
- 学校と家庭の役割が明確になり、子育て世代の働き方が見直される
- 少子高齢化において、社会全体で子供を育てることが共通認識となって、教育への関心が高まる